

2025年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、2025年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、2025年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム(NESID)上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

2025年の結核罹患率（人口10万対）は8.0であり、前年より0.1減少となっている。結核低まん延国の水準である10.0以下を2025年も継続している。

日本の結核罹患率は、米国や西ヨーロッパなどの結核低まん延国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

2025年の都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、徳島県、岐阜県、鹿児島県、兵庫県の順に高く、山梨県、岩手県、新潟県、秋田県、宮城県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は13.4であり、最も低い山梨県の結核罹患率4.5の3.0倍となっている。

【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

2025年の結核による死亡数は1,474人(概数)で、前年の1,462人に比べ12人増加している。死亡率（人口10万対）は1.2で前年と同率である。

【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

(1) 2025年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は9,899人で、前年より152人(1.5%)減少している。減少率を見ると、2024年の前年からの減少率は0.4%（10,096人→10,051人）の減少であったので、2025年の減少幅は1.1ポイント大きくなっている。（表4－1）

(2) 2025年の結核罹患率（人口10万対）は8.0となっており、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態を2021年以降継続している。2024年の結核罹患率は前年と同率(8.1)であったが、2025年は前年から0.1の減少となっている。

(表4－1、図1)

- (3) 2025年の喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は3,259人で、前年より93人(2.8%)の減少となっている。(表4-2)
- (4) 2025年の喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率(人口10万対)は2.6であり、前年の2.7より0.1減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は32.9%で、前年から0.4ポイントの減少となっている。(表4-2)

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

- (1) 2025年の年齢階級別の新登録結核患者数は、5～9歳、15～19歳、20～29歳の年齢階級で増加となっている。特に20～29歳では337人(26.1%)の増加となっている。0～14歳の小児結核は31人で前年から1人の増加となっている。患者数の減少が最も大きかったのは80～89歳で153人(5.4%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が27.3%と最も大きくなっている。

(表5-1)

- (2) 2025年の年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、15～19歳、20～29歳、30～39歳で増加となっている。特に20～29歳で80人(27.7%)の増加となっている。0～14歳の小児喀痰塗抹陽性肺結核患者の発生は0となっている。患者数の減少が最も大きかったのは70～79歳で69人(11.1%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が32.8%と最も大きくなっている。

(表5-2)

- (3) 2025年の小児結核患者(14歳以下)のうち重症結核例である粟粒結核および結核性髄膜炎の発生は0となっている。

(表5-3)

- (4) 2025年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,475人で、前年より492人(8.2%)の減少となっている。5～9歳、15～19歳、20～29歳の年齢階級では増加しており、特に20～29歳では214人(27.8%)の増加となっている。減少数が最も大きかったのは70～79歳で201人(17.0%)の減少となっている。0～4歳の登録数は292人で、全体の5.3%となっている。

(表5-4)

(5) 2025年の新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、全体では0.6と潜在性結核感染症新登録者数の方が少なくなっているが、14歳以下の年齢階級では4.0以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は18.3となっている。また、50～59歳で1.1と、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。(表5－5)

(6) 2025年の職業別にみた潜在性結核感染症新登録者数では、医療職(看護師・保健師、医師、その他の医療職)及び介護職は954人で、割合は17.4%となっており、前年の17.5%から0.1ポイントの減少となっている。教員・保育士と高校生以上の生徒学生等での新登録者数が増加となっており、特に高校生以上の生徒学生等では新登録者数は192人(50.8%)の増加で、全体に対しての割合も6.3%から10.4%へと増加となっている。(表5－6)

(7) 2025年の外国生まれ新登録結核患者数は、前年から372人(18.8%)増加して2,352人となっている。新登録結核患者における外国生まれの者の割合も23.8%と前年の19.7%から4.1ポイントの増加となっている。特に、20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて322人(27.7%)増加して1,483人となっており、同年齢階級での外国出生結核患者の割合は91.1%と前年から1.1ポイントの増加となっている。15～19歳の外国生まれ新登録結核患者数は99人、30～39歳は421人で、それぞれ同年齢階級での外国出生結核患者の割合は86.1%、73.3%となっている。

(表5－7)

(8) 2025年の外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は前年の1,166人から304人(26.1%)増加し1,470人となっている。外国生まれ新登録結核患者のうちで入国5年以内の者が占める割合も62.5%となっている。最も患者数が多い20～29歳の年齢階級では、前年から274人(31.9%)増加して1,133人となっている。

(表5－8)

(9) 2025年の日本生まれ新登録結核患者数は、前年の7,911人から511人(6.5%)減少して7,400人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く2,634人で日本生まれ新登録結核患者の35.6%となっている。20～29歳の日本生まれ新登録結核患者数は15人(11.9%)増加の141人となったが、30歳以上の年齢階級では、新登録結核患者数は減少となっている。

(表5－9)

【表 6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

- (1) 年齢階級別の結核罹患率は、20～29歳及び70歳以上の高齢層で高く、20～29歳では12.8、70～79歳では10.2、80～89歳では27.1、90歳以上では47.1となっている。全体としては、外国生まれ患者の影響がある若年層を除いて、年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。
(表 6－1)
- (2) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、高齢層ほど高くなっている。79歳以下の年齢階級は3.4以下だが、80～89歳で10.7、90歳以上では19.1となっている。
(表 6－2)
- (3) 新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.4減少の6.2となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は1.2となっており、全体の罹患率からは低くなっている。
(表 6－3)

【表 7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

- (1) 2025年の都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち19で前年から増加している。新登録結核患者数が最も多いのは大阪府の1,172人で、次いで東京都の1,101人となっている。
(表 7－1)
- (2) 2025年の都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち22で前年から増加している。結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県数は、42に達している。最も低い山梨県の罹患率は4.5となっている。罹患率が最も高い大阪府は13.4で山梨県の3.0倍となっている。
(表 7－2)

【表 8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

2025年末現在の結核登録者数は21,495人と、前年の21,621人より126人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は6,474人と、前年より238人減少している。また、2025年末の結核有病率は、前年の5.4から0.1減少し、5.3となっている。
(表 8)

【表 9 ～ 表15 新登録結核患者の疫学的特徴について】

<再治療者>

2025年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の409人から12人減少して397人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は79人、2020年以降の者は191人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち68.0%となっている。（表 9）

<発見の遅れ>

（ア） 2025年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年から0.3ポイント減少して20.4%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は35.2%で、前年から1.8ポイントの減少となっている。

（表10－1）

（イ） 診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、前年から0.8ポイント増加して23.2%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は18.1%で、前年から0.9ポイントの増加となっている。

（表10－2）

（ウ） 発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、0.9ポイント増加して22.7%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は30.9%で、前年から0.9ポイントの減少となっている。

（表10－3）

<薬剤耐性>

2025年の新登録肺結核菌陽性結核患者*6,335人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者（INH、RFP両剤感受性検査結果判明者）は4,490人で、割合は70.9%となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数（INH、RFP両剤耐性の者）は47人となっている。また、多剤耐性肺結核患者47人のうち、24人が外国出生患者となっている。新登録肺結核菌陽性結核患者で薬剤感受性検査結果が判明した者のうち多剤耐性結核割合は1.0%で前年と同率となっている。また、主要4剤（HRSE）全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は85.9%となっている。（表11）

*：2023年までは、新登録肺結核患者のうち結核菌培養検査での結果陽性患者。2024年は、新登録肺結核患者のうち治療歴なし、または治療歴不明では、結核菌培養検査またはその他の結核菌検査での結果陽性患者。治療歴ありでは、結核菌培養検査での結果陽性患者。

<糖尿病、HIV合併>

2025年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,440人で、新登録結核患者の14.5%となっている。また、HIV検査を実施した患者は531人で、新登録結核患者の5.4%にあたり、このうちHIV陽性は21人で、新登録結核患者の0.2%となっている。
(表12)

<医療従事者>

(ア) 2025年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は77人で、前年の108人から31人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は0.8%と前年から0.3ポイントの減少となっている。年齢階級別の割合では、40～49歳が最も高く、同年齢階級新登録結核患者の3.9%となる18人の登録となっている。
(表13－1)

(イ) 2025年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は20人で、前年と同数となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。20歳から79歳の各年齢階級別新登録結核患者中割合は0.0～0.7%となっている。
(表13－2)

(ウ) 2025年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は342人で、前年の265人から77人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は3.5%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く162人で、前年の115人から47人の増加となっており、同年齢階級新登録結核患者の10.0%となっている。
(表13－3)

<無職臨時日雇など>

2025年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は450人で、前年の497人から47人減少している。新登録結核患者のうちの割合は13.6%で前年から2.5ポイントの減少となっている。年齢階級別の患者数は、55～59歳が最も多い94人で、同年齢階級の28.9%となっている。

また、男性患者に占める無職臨時日雇等の者の年齢階級別割合は55～59歳が最も高く24.8%で、前年からは3.2ポイントの減少となっている。
(表14－1、14－2)

<治療成績>

2024年新登録結核患者の2025年末での治療成績は、治療成功が67.7%、死亡24.2%、失敗0.05%、脱落・中断2.2%、転出2.4%、治療中3.4%、不明0.1%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で12.1%、70～79歳で23.7%、80～89歳で37.0%、90歳以上で56.6%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は85.4%～95.7%となっている。脱落・中断は、70～79歳で最も高く2.6%となっている。

(表15－1)

2024年新登録再治療結核患者の2025年末での治療成績は、治療成功が67.5%、死亡21.3%、失敗0.0%、脱落・中断4.0%、転出1.7%、治療中5.0%、不明0.5%となっている。

(表15－2)

2024年潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2025年末での治療完了率は85.8%となっている。脱落・中断は7.8%となっているが、高齢者で高くなる傾向がみられており、80～89歳で13.0%、90歳以上では11.6%となっている。

(表15－3)

2023年新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2025年末での治療成績は、対象46人のうち治療成功56.5%、死亡17.4%、失敗0.0%、脱落・中断0.0%、転出17.4%、治療中8.7%、不明0.0%となっている。

(表15－4)

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国 名	罹 患 率	年 次
米 国	3.2	2024
デンマーク	3.2	2024
スウェーデン	3.3	2024
オランダ	4.7	2024
イタリア	5.0	2024
ドイツ	5.4	2024
カナダ	6.2	2024
オーストラリア	6.9	2024
フランス	7.8	2024
日 本	8.0	2025
英 国	9.7	2024
韓 国	35	2024
シンガポール	43	2024
中 国	49	2024
タイ	146	2024
ベトナム	182	2024
ネパール	227	2024
インドネシア	382	2024
ミャンマー	482	2024
フィリピン	625	2024

諸外国のデータは、下記より引用

World Health Organization “TB country, regional and global profiles”

<https://www.who.int/teams/global-programme-on-tuberculosis-and-lung-health/data>

2025年7月9日アクセス

日本以外はWHOによる推定罹患率

2025年の結核罹患率（人口10万対）は8.0であり、前年より0.1減少となっている。結核低まん延国の水準である10.0以下を2025年も継続している。

日本の結核罹患率は、米国や西ヨーロッパなどの結核低まん延国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹 患 率
罹患率の低い 5 都道府県	山 梨	4.5
	岩 手	4.6
	新 潟	4.7
	秋 田	4.8
	宮 城	5.0
罹患率の高い 5 都道府県	大 阪	13.4
	徳 島	10.5
	岐 阜	10.4
	鹿児島	10.3
	兵 庫	10.1

2025年の都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、徳島県、岐阜県、鹿児島県、兵庫県の順に高く、山梨県、岩手県、新潟県、秋田県、宮城県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は13.4であり、最も低い山梨県の結核罹患率4.5の3.0倍となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年 次	死亡順位	死 亡 数	死 亡 率
1950年	1位	121,769	146.4
1955年	5位	46,735	52.3
1960年	7位	31,959	34.2
1965年	7位	22,366	22.8
1970年	8位	15,899	15.4
1975年	10位	10,567	9.5
1980年	13位	6,439	5.5
1985年	16位	4,692	3.9
1990年	17位	3,664	3.0
1995年	23位	3,178	2.6
1996年	22位	2,858	2.3
1997年	22位	2,742	2.2
1998年	22位	2,795	2.2
1999年	21位	2,935	2.3
2000年	24位	2,656	2.1
2001年	25位	2,491	2.0
2002年	25位	2,317	1.8
2003年	25位	2,337	1.9
2004年	25位	2,330	1.8
2005年	25位	2,296	1.8
2006年	26位	2,269	1.8
2007年	27位	2,194	1.7
2008年	25位	2,220	1.8
2009年	24位	2,159	1.7
2010年	26位	2,129	1.7
2011年	25位	2,166	1.7
2012年	26位	2,110	1.7
2013年	26位	2,087	1.7
2014年	26位	2,100	1.7
2015年	29位	1,956	1.6
2016年	28位	1,893	1.5
2017年	30位	2,306	1.9
2018年	30位	2,204	1.8
2019年	31位	2,087	1.7
2020年	－	1,909	1.5
2021年	－	1,845	1.5
2022年	－	1,664	1.4
2023年	－	1,587	1.3
2024年	－	1,462	1.2
2025年	－	1,474	1.2

（注）死亡率は人口10万対

人口動態統計より。2025年は概数。

2017年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。

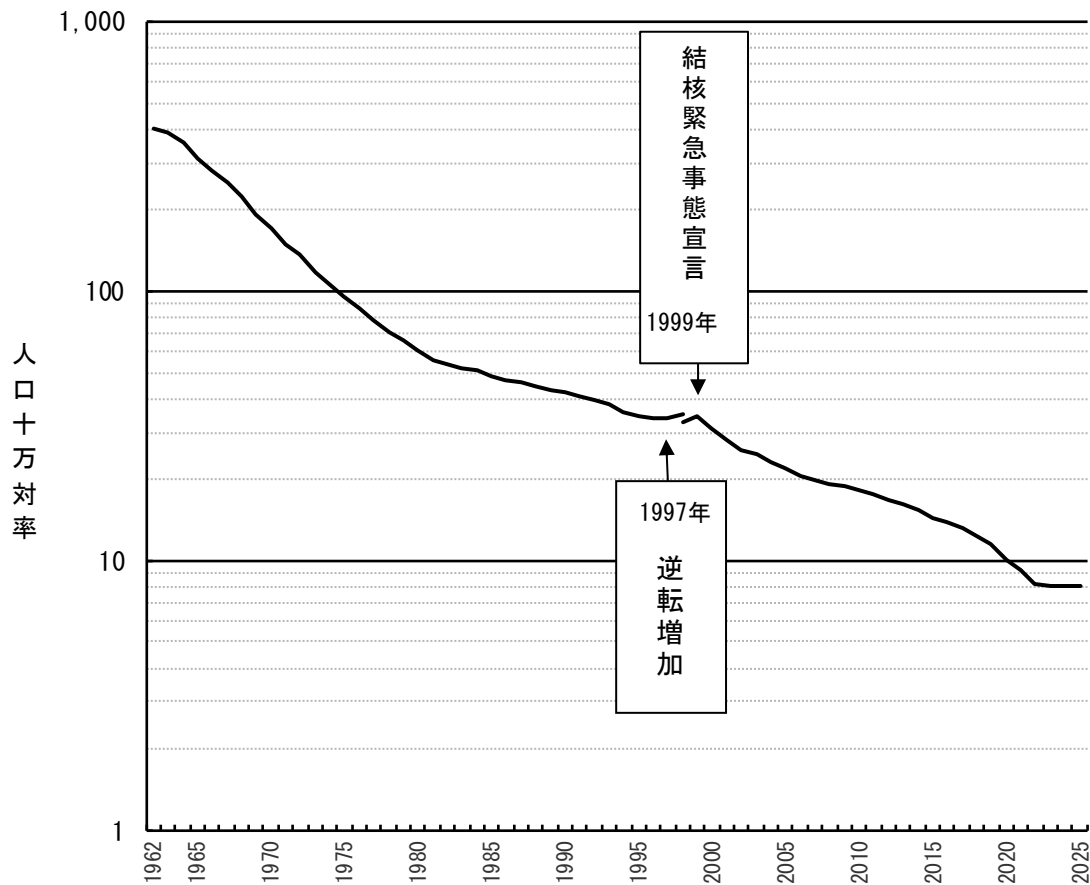
2020年以降は結核の死因の順位の公表はなかった。

2025年の結核による死亡数は1,474人(概数)で、前年の1,462人に比べ12人増加している。死亡率(人口10万対)は1.2で前年と同率である。

表４－１．新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比		実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比	
1992年					48,956		39.3	
1993年					47,437	△1,519	38.0	△1.3
1994年					44,590	△2,847	35.7	△2.3
1995年					43,078	△1,512	34.3	△1.4
1996年					42,472	△ 606	33.7	△0.6
1997年					42,715	243	33.9	0.2
1998年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
1999年	43,818	2,785	34.6	2.2				
2000年	39,384	△4,434	31.0	△3.6				
2001年	35,489	△3,895	27.9	△3.1				
2002年	32,828	△2,661	25.8	△2.1				
2003年	31,638	△1,190	24.8	△1.0				
2004年	29,736	△1,902	23.3	△1.5				
2005年	28,319	△1,417	22.2	△1.1				
2006年	26,384	△1,935	20.6	△1.6				
2007年	25,311	△1,073	19.8	△0.8				
2008年	24,760	△551	19.4	△0.4				
2009年	24,170	△590	19.0	△0.4				
2010年	23,261	△909	18.2	△0.8				
2011年	22,681	△580	17.7	△0.5				
2012年	21,283	△1,398	16.7	△1.0				
2013年	20,495	△788	16.1	△0.6				
2014年	19,615	△880	15.4	△0.7				
2015年	18,280	△1,335	14.4	△1.0				
2016年	17,625	△655	13.9	△0.5				
2017年	16,789	△836	13.3	△0.6				
2018年	15,590	△1,199	12.3	△1.0				
2019年	14,460	△1,130	11.5	△0.8				
2020年	12,739	△1,721	10.1	△1.4				
2021年	11,519	△1,220	9.2	△0.9				
2022年	10,235	△1,284	8.2	△1.0				
2023年	10,096	△139	8.1	△0.1				
2024年	10,051	△45	8.1	0.0				
2025年	9,899	△152	8.0	△0.1				

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



2025年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は9,899人で、前年より152人（1.5%）減少している。減少率を見ると、2024年の前年からの減少率は0.4%（10,096人→10,051人）の減少であったので、2025年の減少幅は1.1ポイント大きくなっている。

2025年の結核罹患率（人口10万対）は8.0となっており、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態を2021年以降継続している。2024年の結核罹患率は前年と同率（8.1）であったが、2025年は前年から0.1の減少となっている。

表４－２．新登録結核患者及び罹患率の年次推移（喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	喀痰塗抹陽性肺結核（新分類） （再掲）		喀痰塗抹陽性 患者の割合 （％／全結核）	塗抹陽性肺結核（旧分類） （再掲）		塗抹陽性患者 の割合 （％ ／全結核）
	実数／前年比	罹患率 （人口10万対）／前年比		実数／前年比	罹患率 （人口10万対）／前年比	
1992年				15,540	12.5	31.7
1993年				15,210 △330	12.2 △0.3	32.1
1994年				14,777 △433	11.8 △0.4	33.1
1995年				15,103 326	12.0 0.2	35.1
1996年				15,035 △ 68	11.9 △0.1	35.4
1997年				15,967 932	12.7 0.8	37.4
1998年	13,405	10.6	32.7	16,294 327	12.9 0.2	37.0
1999年	14,482 1,077	11.4 0.8	33.1			
2000年	13,220 △1,262	10.4 △1.0	33.6			
2001年	12,656 △ 564	9.9 △0.5	35.7			
2002年	11,933 △ 723	9.4 △0.5	36.4			
2003年	11,857 △ 76	9.3 △0.1	37.5			
2004年	11,445 △ 412	9.0 △0.3	38.5			
2005年	11,318 △ 127	8.9 △0.1	40.0			
2006年	10,492 △ 826	8.2 △0.7	39.8			
2007年	10,204 △ 288	8.0 △0.2	40.3			
2008年	9,809 △ 395	7.7 △0.3	39.6			
2009年	9,675 △ 134	7.6 △0.1	40.0			
2010年	9,019 △ 656	7.0 △0.6	38.8			
2011年	8,654 △ 365	6.8 △0.2	38.2			
2012年	8,237 △ 417	6.5 △0.3	38.7			
2013年	8,119 △ 118	6.4 △0.1	39.6			
2014年	7,651 △ 468	6.0 △0.4	39.0			
2015年	7,131 △ 520	5.6 △0.4	39.0			
2016年	6,642 △ 489	5.2 △0.4	37.7			
2017年	6,359 △ 283	5.0 △0.2	37.9			
2018年	5,781 △ 578	4.6 △0.4	37.1			
2019年	5,231 △ 550	4.1 △0.5	36.2			
2020年	4,615 △ 616	3.7 △0.4	36.2			
2021年	4,127 △ 488	3.3 △0.4	35.8			
2022年	3,703 △ 424	3.0 △0.3	36.2			
2023年	3,524 △ 179	2.8 △0.2	34.9			
2024年	3,352 △ 172	2.7 △0.1	33.3			
2025年	3,259 △ 93	2.6 △0.1	32.9			

2025年の喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は3,259人で、前年より93人（2.8％）の減少となっている。

2025年の喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は2.6であり、前年の2.7より0.1減少している。

喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は32.9％で、前年から0.4ポイントの減少となっている

表５－１．年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	11,519 (100.0)	10,235 (100.0)	10,096 (100.0)	10,051 (100.0)	9,899 (100.0)
0～4歳	14 (0.1)	21 (0.2)	20 (0.2)	19 (0.2)	16 (0.2)
5～9歳	5 (0.0)	8 (0.1)	6 (0.1)	4 (0.0)	9 (0.1)
10～14歳	10 (0.1)	6 (0.1)	11 (0.1)	7 (0.1)	6 (0.1)
15～19歳	98 (0.9)	71 (0.7)	91 (0.9)	96 (1.0)	115 (1.2)
20～29歳	930 (8.1)	777 (7.6)	1,042 (10.3)	1,290 (12.8)	1,627 (16.4)
30～39歳	597 (5.2)	503 (4.9)	542 (5.4)	591 (5.9)	574 (5.8)
40～49歳	640 (5.6)	546 (5.3)	487 (4.8)	468 (4.7)	457 (4.6)
50～59歳	841 (7.3)	733 (7.2)	762 (7.5)	735 (7.3)	657 (6.6)
60～69歳	1,070 (9.3)	921 (9.0)	863 (8.5)	793 (7.9)	761 (7.7)
70～79歳	2,241 (19.5)	2,066 (20.2)	1,943 (19.2)	1,753 (17.4)	1,640 (16.6)
80～89歳	3,440 (29.9)	3,159 (30.9)	2,920 (28.9)	2,858 (28.4)	2,705 (27.3)
90歳以上	1,633 (14.2)	1,424 (13.9)	1,409 (14.0)	1,437 (14.3)	1,332 (13.5)

2025年の年齢階級別の新登録結核患者数は、5～9歳、15～19歳、20～29歳の年齢階級で増加となっている。特に20～29歳では337人(26.1%)の増加となっている。0～14歳の小児結核は31人で前年から1人の増加となっている。患者数の減少が最も大きかったのは80～89歳で153人(5.4%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が27.3%と最も大きくなっている。

表５－２．年次別・年齢階級別 喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

() 内は構成比

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	4,127 (100.0)	3,703 (100.0)	3,524 (100.0)	3,352 (100.0)	3,259 (100.0)
0～4歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10～14歳	2 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.1)	0 (0.0)
15～19歳	35 (0.8)	17 (0.5)	19 (0.5)	19 (0.6)	28 (0.9)
20～29歳	202 (4.9)	198 (5.3)	240 (6.8)	289 (8.6)	369 (11.3)
30～39歳	169 (4.1)	136 (3.7)	139 (3.9)	116 (3.5)	121 (3.7)
40～49歳	182 (4.4)	169 (4.6)	146 (4.1)	132 (3.9)	108 (3.3)
50～59歳	291 (7.1)	264 (7.1)	233 (6.6)	240 (7.2)	218 (6.7)
60～69歳	379 (9.2)	317 (8.6)	296 (8.4)	280 (8.4)	252 (7.7)
70～79歳	794 (19.2)	756 (20.4)	696 (19.8)	621 (18.5)	552 (16.9)
80～89歳	1,374 (33.3)	1,241 (33.5)	1,163 (33.0)	1,104 (32.9)	1,070 (32.8)
90歳以上	699 (16.9)	603 (16.3)	591 (16.8)	549 (16.4)	541 (16.6)

2025年の年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、15～19歳、20～29歳、30～39歳で増加となっている。特に20～29歳で80人(27.7%)の増加となっている。0～14歳の小児喀痰塗抹陽性肺結核患者の発生は0となっている。患者数の減少が最も大きかったのは70～79歳で69人(11.1%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が32.8%と最も大きくなっている。

表５－３．年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区 分	2021年			2022年			2023年			2024年			2025年		
	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発
合 計	1	0	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0
0～ 4歳	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0
5～ 9歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

2024年患者の詳細

粟粒結核 1歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

2023年患者の詳細

粟粒結核 11歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

11歳、外国出生1名、BCG接種歴なし。

結核性髄膜炎 0歳、出生国不明1名、BCG接種歴不明。

1歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

3歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

2021年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2025年の小児結核患者（14歳以下）のうち重症結核例である粟粒結核および結核性髄膜炎の発生は0となっている。

表５－４．年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比）

区 分	2021年		2022年		2023年		2024年		2025年	
総 数	5,140	(100.0)	5,025	(100.0)	5,033	(100.0)	5,967	(100.0)	5,475	(100.0)
0～ 4歳	281	(5.5)	279	(5.6)	283	(5.6)	313	(5.2)	292	(5.3)
5～ 9歳	35	(0.7)	42	(0.8)	35	(0.7)	36	(0.6)	37	(0.7)
10～14歳	28	(0.5)	33	(0.7)	25	(0.5)	29	(0.5)	24	(0.4)
15～19歳	51	(1.0)	62	(1.2)	79	(1.6)	80	(1.3)	105	(1.9)
20～29歳	431	(8.4)	462	(9.2)	664	(13.2)	769	(12.9)	983	(18.0)
30～39歳	414	(8.1)	350	(7.0)	396	(7.9)	510	(8.5)	443	(8.1)
40～49歳	547	(10.6)	520	(10.3)	437	(8.7)	558	(9.4)	431	(7.9)
50～59歳	703	(13.7)	668	(13.3)	633	(12.6)	787	(13.2)	727	(13.3)
60～69歳	747	(14.5)	666	(13.3)	642	(12.8)	689	(11.5)	606	(11.1)
70～79歳	1,112	(21.6)	1,093	(21.8)	982	(19.5)	1,185	(19.9)	984	(18.0)
80歳以上	791	(15.4)	850	(16.9)	857	(17.0)	1,011	(16.9)	843	(15.4)

2025年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,475人で、前年より492人(8.2%)の減少となっている。5～9歳、15～19歳、20～29歳の年齢階級では増加しており、特に20～29歳では214人(27.8%)の増加となっている。減少数が最も大きかったのは70～79歳で201人(17.0%)の減少となっている。0～4歳の登録数は292人で、全体の5.3%となっている。

表５－５．年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）
新登録者数の比

（比：潜在性結核感染症新登録者数／新登録結核患者数）

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	0.4	0.5	0.5	0.6	0.6
0～4歳	20.1	13.3	14.2	16.5	18.3
5～9歳	7.0	5.3	5.8	9.0	4.1
10～14歳	2.8	5.5	2.3	4.1	4.0
15～19歳	0.5	0.9	0.9	0.8	0.9
20～29歳	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6
30～39歳	0.7	0.7	0.7	0.9	0.8
40～49歳	0.9	1.0	0.9	1.2	0.9
50～59歳	0.8	0.9	0.8	1.1	1.1
60～69歳	0.7	0.7	0.7	0.9	0.8
70～79歳	0.5	0.5	0.5	0.7	0.6
80歳以上	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

2025年の新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、全体では0.6と潜在性結核感染症新登録者数の方が少なくなっているが、14歳以下の年齢階級では4.0以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は18.3となっている。また、50～59歳で1.1と、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。

表５－６．年次別・職業別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（（ ）内は構成比）

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2025/2024年
総 数	5,140 (100.0)	5,025 (100.0)	5,033 (100.0)	5,967 (100.0)	5,475 (100.0)	0.9
看護師・保健師	412 (8.0)	343 (6.8)	324 (6.4)	369 (6.2)	320 (5.8)	0.9
医師	73 (1.4)	79 (1.6)	73 (1.5)	77 (1.3)	60 (1.1)	0.8
その他医療職・介護職	522 (10.2)	435 (8.7)	447 (8.9)	598 (10.0)	574 (10.5)	1.0
接客業等	102 (2.0)	111 (2.2)	123 (2.4)	136 (2.3)	128 (2.3)	0.9
教員・保育士	42 (0.8)	41 (0.8)	32 (0.6)	45 (0.8)	49 (0.9)	1.1
上記以外の常用勤労者	817 (15.9)	737 (14.7)	879 (17.5)	1,093 (18.3)	1,006 (18.4)	0.9
上記以外の臨時雇、日雇	155 (3.0)	173 (3.4)	131 (2.6)	159 (2.7)	143 (2.6)	0.9
上記以外の自営業・自由業	198 (3.9)	159 (3.2)	186 (3.7)	201 (3.4)	158 (2.9)	0.8
家事従事者	48 (0.9)	34 (0.7)	31 (0.6)	48 (0.8)	40 (0.7)	0.8
無職・その他	2,141 (41.7)	2,185 (43.5)	2,041 (40.6)	2,353 (39.4)	1,933 (35.3)	0.8
乳幼児	234 (4.6)	226 (4.5)	226 (4.5)	239 (4.0)	233 (4.3)	1.0
保育園、幼稚園児・小中学生	81 (1.6)	104 (2.1)	93 (1.8)	97 (1.6)	87 (1.6)	0.9
高校生以上の生徒学生等	151 (2.9)	233 (4.6)	331 (6.6)	378 (6.3)	570 (10.4)	1.5
不明	164 (3.2)	165 (3.3)	116 (2.3)	174 (2.9)	174 (3.2)	1.0

2025年の職業別にみた潜在性結核感染症新登録者数では、医療職（看護師・保健師、医師、その他の医療職）及び介護職は954人で、割合は17.4%となっており、前年の17.5%から0.1ポイントの減少となっている。教員・保育士と高校生以上の生徒学生等での新登録者数が増加となっており、特に高校生以上の生徒学生等では新登録者数は192人（50.8%）の増加で、全体に対しての割合も6.3%から10.4%へと増加となっている。

表５－７．年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

（（ ）内は新登録に占める割合）

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	1,313 (11.4)	1,214 (11.9)	1,619 (16.0)	1,980 (19.7)	2,352 (23.8)
0～4歳	1 (7.1)	6 (28.6)	3 (15.0)	1 (5.3)	4 (25.0)
5～9歳	2 (40.0)	1 (12.5)	3 (50.0)	0 (0.0)	2 (22.2)
10～14歳	3 (30.0)	1 (16.7)	2 (18.2)	6 (85.7)	4 (66.7)
15～19歳	40 (40.8)	41 (57.7)	69 (75.8)	76 (79.2)	99 (86.1)
20～29歳	675 (72.6)	602 (77.5)	884 (84.8)	1,161 (90.0)	1,483 (91.1)
30～39歳	276 (46.2)	273 (54.3)	334 (61.6)	407 (68.9)	421 (73.3)
40～49歳	135 (21.1)	125 (22.9)	112 (23.0)	142 (30.3)	143 (31.3)
50～59歳	94 (11.2)	84 (11.5)	86 (11.3)	97 (13.2)	86 (13.1)
60～69歳	43 (4.0)	33 (3.6)	57 (6.6)	46 (5.8)	56 (7.4)
70～79歳	16 (0.7)	19 (0.9)	30 (1.5)	20 (1.1)	24 (1.5)
80歳以上	28 (0.6)	29 (0.6)	39 (0.9)	24 (0.6)	30 (0.7)

2025年の外国生まれ新登録結核患者数は、前年から372人（18.8%）増加して2,352人となっている。新登録結核患者における外国生まれの者の割合も23.8%と前年の19.7%から4.1ポイントの増加となっている。特に、20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて322人（27.7%）増加して1,483人となっており、同年齢階級での外国出生結核患者の割合は91.1%と前年から1.1ポイントの増加となっている。15～19歳の外国生まれ新登録結核患者数は99人、30～39歳は421人で、それぞれ同年齢階級での外国出生結核患者の割合は86.1%、73.3%となっている。

表 5－8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国 5 年以内、再掲）

（（ ）内は全外国生まれ新登録患者に占める割合）

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	568 (43.3)	513 (42.3)	888 (54.8)	1,166 (58.9)	1,470 (62.5)
0～4歳	1 (100.0)	4 (66.7)	2 (66.7)	1 (100.0)	3 (75.0)
5～9歳	1 (50.0)	1 (100.0)	3 (100.0)	0 -	2 (100.0)
10～14歳	2 (66.7)	0 (0.0)	2 (100.0)	3 (50.0)	1 (25.0)
15～19歳	27 (67.5)	29 (70.7)	52 (75.4)	59 (77.6)	77 (77.8)
20～29歳	384 (56.9)	357 (59.3)	619 (70.0)	859 (74.0)	1,133 (76.4)
30～39歳	117 (42.4)	87 (31.9)	158 (47.3)	186 (45.7)	198 (47.0)
40～49歳	23 (17.0)	23 (18.4)	27 (24.1)	36 (25.4)	32 (22.4)
50～59歳	7 (7.4)	8 (9.5)	7 (8.1)	9 (9.3)	10 (11.6)
60～69歳	5 (11.6)	1 (3.0)	10 (17.5)	8 (17.4)	6 (10.7)
70～79歳	0 (0.0)	1 (5.3)	7 (23.3)	3 (15.0)	6 (25.0)
80歳以上	1 (3.6)	2 (6.9)	1 (2.6)	2 (8.3)	2 (6.7)

2025年の外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は前年の1,166人から304人(26.1%)増加し1,470人となっている。外国生まれ新登録結核患者のうちで入国5年以内の者が占める割合も62.5%となっている。最も患者数が多い20～29歳の年齢階級では、前年から274人(31.9%)増加して1,133人となっている。

表 5－9. 年次別・年齢階級別 日本生まれ新登録結核患者数

（（ ）内は構成比）

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	9,809 (100.0)	8,673 (100.0)	8,206 (100.0)	7,911 (100.0)	7,400 (100.0)
0～4歳	13 (0.1)	15 (0.2)	15 (0.2)	18 (0.2)	12 (0.2)
5～9歳	3 (0.0)	7 (0.1)	3 (0.0)	4 (0.1)	7 (0.1)
10～14歳	7 (0.1)	5 (0.1)	9 (0.1)	1 (0.0)	2 (0.0)
15～19歳	57 (0.6)	28 (0.3)	21 (0.3)	18 (0.2)	16 (0.2)
20～29歳	243 (2.5)	161 (1.9)	148 (1.8)	126 (1.6)	141 (1.9)
30～39歳	304 (3.1)	218 (2.5)	200 (2.4)	179 (2.3)	148 (2.0)
40～49歳	490 (5.0)	404 (4.7)	366 (4.5)	318 (4.0)	309 (4.2)
50～59歳	721 (7.4)	631 (7.3)	654 (8.0)	622 (7.9)	562 (7.6)
60～69歳	990 (10.1)	862 (9.9)	783 (9.5)	735 (9.3)	687 (9.3)
70～79歳	2,141 (21.8)	1,970 (22.7)	1,861 (22.7)	1,700 (21.5)	1,591 (21.5)
80～89歳	3,274 (33.4)	3,016 (34.8)	2,794 (34.0)	2,780 (35.1)	2,634 (35.6)
90歳以上	1,566 (16.0)	1,356 (15.6)	1,352 (16.5)	1,410 (17.8)	1,291 (17.4)

(注) 出生国については日本生れと外国生まれの他に出生国不明がある。

2025年の日本生まれ新登録結核患者数は、前年の7,911人から511人(6.5%)減少して7,400人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く2,634人で日本生まれ新登録結核患者の35.6%となっている。20～29歳の日本生まれ新登録結核患者数は15人(11.9%)増加の141人となったが、30歳以上の年齢階級では、新登録結核患者数は減少となっている。

表 6-1. 年次別・年齢階級別 結核罹患率 (人口10万対)

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	9.2	8.2	8.1	8.1	8.0
0～4歳	0.3	0.5	0.5	0.5	0.4
5～9歳	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2
10～14歳	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1
15～19歳	1.8	1.3	1.7	1.8	2.1
20～29歳	7.4	6.1	8.2	10.1	12.8
30～39歳	4.3	3.7	4.0	4.5	4.4
40～49歳	3.6	3.1	2.9	2.9	2.9
50～59歳	4.9	4.2	4.2	4.0	3.6
60～69歳	7.0	6.1	5.8	5.3	5.1
70～79歳	13.7	12.6	11.9	10.9	10.2
80～89歳	36.5	32.6	29.6	28.3	27.1
90歳以上	64.6	54.0	51.6	51.1	47.1

年齢階級別の結核罹患率は、20～29歳及び70歳以上の高齢層で高く、20～29歳では12.8、70～79歳では10.2、80～89歳では27.1、90歳以上では47.1となっている。全体としては、外国生まれ患者の影響がある若年層を除いて、年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。

表 6-2. 年次別・年齢階級別 結核罹患率 (喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲)

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	3.3	3.0	2.8	2.7	2.7
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15～19歳	0.6	0.3	0.3	0.3	0.5
20～29歳	1.6	1.6	1.9	2.3	2.9
30～39歳	1.2	1.0	1.0	0.9	0.9
40～49歳	1.0	1.0	0.9	0.8	0.7
50～59歳	1.7	1.5	1.3	1.3	1.2
60～69歳	2.5	2.1	2.0	1.9	1.7
70～79歳	4.8	4.6	4.3	3.9	3.4
80～89歳	14.6	12.8	11.8	11.0	10.7
90歳以上	27.7	22.9	21.6	19.5	19.1

喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、高齢層ほど高くなっている。79歳以下の年齢階級は3.4以下だが、80～89歳で10.7、90歳以上では19.1となっている。

表 6－3．年次別・年齢階級別 結核罹患率（日本生れ新登録結核患者、再掲）

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	8.0	7.1	6.8	6.6	6.2
0～ 4歳	0.3	0.4	0.4	0.5	0.3
5～ 9歳	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2
10～14歳	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0
15～19歳	1.0	0.5	0.4	0.3	0.3
20～29歳	2.1	1.4	1.3	1.1	1.2
30～39歳	2.3	1.7	1.6	1.4	1.2
40～49歳	2.8	2.4	2.2	2.0	2.0
50～59歳	4.3	3.7	3.7	3.5	3.1
60～69歳	6.6	5.8	5.3	5.0	4.6
70～79歳	13.1	12.1	11.5	10.6	9.9
80～89歳	34.8	31.2	28.4	27.7	26.5
90歳以上	62.1	51.5	49.6	50.3	45.8

新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.4減少の6.2となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は1.2となっており、全体の罹患率からは低くなっている。

表7－1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数（人）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数（人）				
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
全 国	11,519	10,235	10,096	10,051	9,899		4,127	3,703	3,524	3,352	3,259
北海道	335	281	297	268	280	↑	126	101	102	75	96
青 森	105	90	70	77	81	↑	46	33	24	31	31
岩 手	61	60	42	71	52		31	22	19	24	18
宮 城	152	127	117	130	112		55	61	41	43	34
秋 田	46	52	48	62	42		26	18	20	22	18
山 形	60	48	45	41	51	↑	25	19	17	10	28
福 島	101	82	93	94	88		35	34	32	39	32
茨 城	221	248	239	212	230	↑	69	78	69	74	53
栃 木	151	112	135	127	124		60	50	52	47	42
群 馬	123	112	122	133	121		31	40	31	40	33
埼 玉	616	557	581	541	526		214	233	200	182	165
千 葉	553	494	467	499	512	↑	184	153	155	174	178
東 京	1,429	1,193	1,190	1,187	1,101		545	453	451	377	365
神奈川	748	701	655	602	604	↑	257	225	249	195	183
新 潟	144	105	128	103	97		59	30	31	34	22
富 山	84	65	77	66	57		26	22	28	25	23
石 川	97	79	70	84	86	↑	39	31	23	23	18
福 井	51	42	42	54	50		13	9	9	15	10
山 梨	35	51	32	35	35		10	15	9	10	9
長 野	104	105	104	84	102	↑	31	41	40	32	54
岐 阜	214	196	176	196	196		70	75	67	54	61
静 岡	291	241	281	249	276	↑	100	87	90	70	95
愛 知	880	724	673	692	679		283	246	223	212	187
三 重	148	139	152	163	142		58	54	52	58	62
滋 賀	117	116	93	93	99	↑	28	27	29	23	29
京 都	271	239	250	254	234		94	88	69	93	89
大 阪	1,171	1,118	1,145	1,118	1,172	↑	473	454	411	447	416
兵 庫	586	530	550	513	536	↑	222	187	207	172	205
奈 良	121	122	140	108	108		51	53	61	46	49
和歌山	89	94	75	90	56		42	32	27	31	27
鳥 取	38	40	33	29	43	↑	14	13	10	9	10
島 根	54	67	48	41	42	↑	18	27	14	14	17
岡 山	183	148	136	147	135		60	59	63	45	29
広 島	239	195	214	201	191		91	77	66	64	70
山 口	119	116	114	116	106		29	45	38	34	27
徳 島	92	75	52	84	71		34	20	12	23	21
香 川	83	80	64	80	67		26	34	27	17	20
愛 媛	110	98	86	90	78		48	46	32	29	25
高 知	48	54	42	46	38		19	22	19	19	11
福 岡	535	437	429	501	474		189	141	139	163	159
佐 賀	72	59	70	61	64	↑	28	15	25	22	29
長 崎	175	137	124	120	122	↑	49	39	32	33	27
熊 本	126	146	117	121	144	↑	39	46	44	48	51
大 分	117	119	134	116	91		49	47	50	45	26
宮 崎	88	84	64	68	90	↑	25	30	19	27	24
鹿児島	161	133	152	143	156	↑	56	38	60	38	49
沖 縄	175	124	128	141	138		50	33	36	44	32
指定都市（再掲）											
札 幌	111	92	93	80	98	↑	49	27	33	26	36
仙 台	86	65	51	65	62		28	36	13	19	18
さいたま	107	96	113	98	82		36	42	37	30	25
千 葉	94	95	68	84	83		35	27	32	35	36
横 浜	335	288	301	266	281	↑	119	102	108	83	75
川 崎	138	127	132	107	101		46	32	48	38	38
相模原	47	48	50	42	47	↑	23	20	28	20	14
新 潟	45	43	43	42	38		22	14	11	17	12
静 岡	63	54	57	56	88	↑	19	17	17	22	29
浜 松	73	60	57	59	58		19	19	17	7	19
名古屋	336	283	262	263	252		119	104	91	90	74
京 都	164	144	154	152	147		56	59	40	48	53
大 阪	512	480	508	487	489	↑	203	181	170	186	147
堺	119	119	104	120	116		50	54	41	49	49
神 戸	201	148	170	151	188	↑	77	42	68	48	68
岡 山	81	45	51	66	63		21	22	26	18	15
広 島	86	91	84	77	76		37	38	28	25	25
北九州	142	103	95	113	91		45	29	26	37	36
福 岡	138	143	140	176	145		51	47	41	62	45
熊 本	46	55	44	45	51	↑	14	19	18	17	18
東京都特別区	1,071	926	914	890	852		408	352	337	275	273

(注)備考欄において「↑」は2025年の新登録数が2024年を上回ったものを表す。

2025年の都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち19で前年から増加している。新登録結核患者数が最も多いのは大阪府の1,172人で、次いで東京都の1,101人となっている。

表7－2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率（人口10万対）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）				
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
全 国	9.2	8.2	8.1	8.1	8.0		3.3	3.0	2.8	2.7	2.7
北海道	6.5	5.5	5.8	5.3	5.6	↑	2.4	2.0	2.0	1.5	1.9
青 森	8.6	7.5	5.9	6.6	7.1	↑	3.8	2.7	2.0	2.7	2.7
岩 手	5.1	5.1	3.6	6.2	4.6	○2	2.6	1.9	1.6	2.1	1.6
宮 城	6.6	5.6	5.2	5.8	5.0	○5	2.4	2.7	1.8	1.9	1.5
秋 田	4.9	5.6	5.3	6.9	4.8	○4	2.8	1.9	2.2	2.5	2.0
山 形	5.7	4.6	4.4	4.1	5.1	↑	2.4	1.8	1.7	1.0	2.8
福 島	5.6	4.6	5.3	5.4	5.1		1.9	1.9	1.8	2.2	1.9
茨 城	7.7	8.7	8.5	7.6	8.2	↑	2.4	2.7	2.4	2.6	1.9
栃 木	7.9	5.9	7.1	6.7	6.7		3.1	2.6	2.7	2.5	2.3
群 馬	6.4	5.9	6.4	7.0	6.5		1.6	2.1	1.6	2.1	1.8
埼 玉	8.4	7.6	7.9	7.4	7.2		2.9	3.2	2.7	2.5	2.3
千 葉	8.8	7.9	7.5	8.0	8.2	↑	2.9	2.4	2.5	2.8	2.8
東 京	10.2	8.5	8.4	8.4	7.7		3.9	3.2	3.2	2.7	2.6
神奈川	8.1	7.6	7.1	6.5	6.6	↑	2.8	2.4	2.7	2.1	2.0
新 潟	6.6	4.9	6.0	4.9	4.7	○3	2.7	1.4	1.5	1.6	1.1
富 山	8.2	6.4	7.6	6.6	5.8		2.5	2.2	2.8	2.5	2.3
石 川	8.6	7.1	6.3	7.7	7.9	↑	3.5	2.8	2.1	2.1	1.7
福 井	6.7	5.6	5.6	7.3	6.9		1.7	1.2	1.2	2.0	1.4
山 梨	4.3	6.4	4.0	4.4	4.5	↑○1	1.2	1.9	1.1	1.3	1.2
長 野	5.1	5.2	5.2	4.2	5.2	↑	1.5	2.0	2.0	1.6	2.8
岐 阜	10.9	10.1	9.1	10.2	10.4	↑△3	3.6	3.9	3.5	2.8	3.2
静 岡	8.1	6.7	7.9	7.1	8.0	↑	2.8	2.4	2.5	2.0	2.7
愛 知	11.7	9.7	9.0	9.3	9.1		3.8	3.3	3.0	2.8	2.5
三 重	8.4	8.0	8.8	9.5	8.4		3.3	3.1	3.0	3.4	3.7
滋 賀	8.3	8.2	6.6	6.6	7.1	↑	2.0	1.9	2.1	1.6	2.1
京 都	10.6	9.4	9.9	10.1	9.4		3.7	3.5	2.7	3.7	3.6
大 阪	13.3	12.7	13.1	12.8	13.4	↑△1	5.4	5.2	4.7	5.1	4.7
兵 庫	10.8	9.8	10.2	9.6	10.1	↑△5	4.1	3.5	3.9	3.2	3.9
奈 良	9.2	9.3	10.8	8.4	8.5	↑	3.9	4.1	4.7	3.6	3.9
和歌山	9.7	10.4	8.4	10.2	6.5		4.6	3.5	3.0	3.5	3.1
鳥 取	6.9	7.4	6.1	5.5	8.2	↑	2.6	2.4	1.9	1.7	1.9
島 根	8.1	10.2	7.4	6.4	6.7	↑	2.7	4.1	2.2	2.2	2.7
岡 山	9.8	7.9	7.4	8.0	7.5		3.2	3.2	3.4	2.5	1.6
広 島	8.6	7.1	7.8	7.4	7.1		3.3	2.8	2.4	2.4	2.6
山 口	9.0	8.8	8.8	9.1	8.4		2.2	3.4	2.9	2.7	2.1
徳 島	12.9	10.7	7.5	12.3	10.5	△2	4.8	2.8	1.7	3.4	3.1
香 川	8.8	8.6	6.9	8.7	7.4		2.8	3.6	2.9	1.9	2.2
愛 媛	8.3	7.5	6.7	7.1	6.2		3.6	3.5	2.5	2.3	2.0
高 知	7.0	8.0	6.3	7.0	5.9		2.8	3.3	2.9	2.9	1.7
福 岡	10.4	8.5	8.4	9.8	9.3		3.7	2.8	2.7	3.2	3.1
佐 賀	8.9	7.4	8.8	7.7	8.2	↑	3.5	1.9	3.1	2.8	3.7
長 崎	13.5	10.7	9.8	9.6	9.9	↑	3.8	3.0	2.5	2.6	2.2
熊 本	7.3	8.5	6.8	7.1	8.6	↑	2.3	2.7	2.6	2.8	3.0
大 分	10.5	10.8	12.2	10.7	8.5		4.4	4.2	4.6	4.1	2.4
宮 崎	8.3	8.0	6.1	6.6	8.8	↑	2.4	2.9	1.8	2.6	2.4
鹿児島	10.2	8.5	9.8	9.3	10.3	↑△4	3.6	2.4	3.9	2.5	3.2
沖 縄	11.9	8.4	8.7	9.6	9.4		3.4	2.2	2.5	3.0	2.2
指定都市（再掲）											
札 幌	5.6	4.7	4.7	4.1	5.0	↑	2.5	1.4	1.7	1.3	1.8
仙 台	7.8	5.9	4.6	5.9	5.7		2.6	3.3	1.2	1.7	1.6
さいたま	8.0	7.2	8.4	7.3	6.1		2.7	3.1	2.8	2.2	1.9
千 葉	9.6	9.7	6.9	8.5	8.3		3.6	2.8	3.3	3.6	3.6
横 浜	8.9	7.6	8.0	7.1	7.5	↑	3.2	2.7	2.9	2.2	2.0
川 崎	9.0	8.2	8.5	6.9	6.5		3.0	2.1	3.1	2.4	2.4
相模原	6.5	6.6	6.9	5.8	6.5	↑	3.2	2.8	3.9	2.8	1.9
新 潟	5.7	5.5	5.6	5.5	5.0		2.8	1.8	1.4	2.2	1.6
静 岡	9.1	7.9	8.4	8.3	13.4	↑	2.8	2.5	2.5	3.3	4.4
浜 松	9.2	7.6	7.3	7.6	7.6		2.4	2.4	2.2	0.9	2.5
名古屋	14.4	12.2	11.3	11.3	10.7		5.1	4.5	3.9	3.9	3.2
京 都	11.3	9.9	10.7	10.6	10.3		3.9	4.1	2.8	3.3	3.7
大 阪	18.6	17.4	18.3	17.4	17.4		7.4	6.6	6.1	6.7	5.2
堺	14.5	14.6	12.8	14.9	14.5		6.1	6.6	5.0	6.1	6.1
神 戸	13.2	9.8	11.3	10.1	12.6	↑	5.1	2.8	4.5	3.2	4.5
岡 山	11.2	6.3	7.1	9.3	8.9		2.9	3.1	3.6	2.5	2.1
広 島	7.2	7.6	7.1	6.5	6.5		3.1	3.2	2.4	2.1	2.1
北九州	15.2	11.1	10.4	12.4	10.1		4.8	3.1	2.8	4.1	4.0
福 岡	8.5	8.8	8.5	10.6	8.7		3.1	2.9	2.5	3.7	2.7
熊 本	6.2	7.5	6.0	6.1	7.0	↑	1.9	2.6	2.4	2.3	2.5
東京都特別区	11.1	9.5	9.3	9.0	8.6		4.2	3.6	3.4	2.8	2.7

注1) 備考欄において「↑」は2025年の罹患率が2024年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

2025年の都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち22で前年から増加している。結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県の数、42に達している。最も低い山梨県の罹患率は4.5となっている。罹患率が最も高い大阪府は13.4で山梨県の3.0倍となっている。

表 8. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) ／前年比	
1994年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
1995年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
1996年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
1997年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
1998年	107,058		49,205		38.9	
1999年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
2000年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
2001年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
2002年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
2003年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
2004年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
2005年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
2006年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
2007年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
2008年	62,244	△1,312	20,021	△616	15.7	△0.5
2009年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
2010年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
2011年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
2012年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
2013年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
2014年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
2015年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
2016年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7
2017年	39,670	△2,629	11,097	△620	8.8	△0.4
2018年	37,134	△2,536	10,448	△649	8.3	△0.5
2019年	34,523	△2,611	9,695	△753	7.7	△0.6
2020年	31,551	△2,972	8,640	△1,055	6.8	△0.9
2021年	27,754	△3,797	7,744	△896	6.2	△0.6
2022年	24,555	△3,199	6,782	△962	5.4	△0.8
2023年	22,426	△2,129	6,794	▲12	5.5	▲0.1
2024年	21,621	△805	6,712	△82	5.4	△0.1
2025年	21,495	△126	6,474	△238	5.3	△0.1

1998年以降は新分類

2025年末現在の結核登録者数は21,495人と、前年の21,621人より126人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は6,474人と、前年より238人減少している。また、2025年末の結核有病率は、前年の5.4から0.1減少し、5.3となっている。

表9. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2021年登録者	2022年登録者	2023年登録者	2024年登録者	2025年登録者
総 数	460 (100.0)	384 (100.0)	425 (100.0)	409 (100.0)	397 (100.0)
1940年代以前	15 (3.3)	12 (3.1)	10 (2.4)	7 (1.7)	7 (1.8)
1950 年代	58 (12.6)	31 (8.1)	47 (11.1)	47 (11.5)	19 (4.8)
1960 年代	20 (4.3)	13 (3.4)	21 (4.9)	20 (4.9)	28 (7.1)
1970 年代	16 (3.5)	18 (4.7)	8 (1.9)	13 (3.2)	18 (4.5)
1980 年代	8 (1.7)	8 (2.1)	9 (2.1)	16 (3.9)	10 (2.5)
1990 年代	20 (4.3)	18 (4.7)	15 (3.5)	14 (3.4)	10 (2.5)
2000 年代	44 (9.6)	37 (9.6)	50 (11.8)	42 (10.3)	35 (8.8)
2010 年代	195 (42.4)	122 (31.8)	120 (28.2)	94 (23.0)	79 (19.9)
2020年以降	84 (18.3)	125 (32.6)	145 (34.1)	156 (38.1)	191 (48.1)
（再掲）2010年以降の再治療者数					
2010 年	9 (3.2)	5 (2.0)	7 (2.6)	3 (1.2)	6 (2.2)
2011 年	9 (3.2)	4 (1.6)	4 (1.5)	6 (2.4)	8 (3.0)
2012 年	8 (2.9)	16 (6.5)	11 (4.2)	5 (2.0)	4 (1.5)
2013 年	15 (5.4)	9 (3.6)	12 (4.5)	6 (2.4)	5 (1.9)
2014 年	12 (4.3)	5 (2.0)	9 (3.4)	10 (4.0)	4 (1.5)
2015 年	14 (5.0)	11 (4.5)	14 (5.3)	9 (3.6)	8 (3.0)
2016 年	10 (3.6)	12 (4.9)	12 (4.5)	6 (2.4)	5 (1.9)
2017 年	21 (7.5)	17 (6.9)	13 (4.9)	15 (6.0)	10 (3.7)
2018 年	34 (12.2)	13 (5.3)	16 (6.0)	11 (4.4)	14 (5.2)
2019 年	63 (22.6)	30 (12.1)	22 (8.3)	23 (9.2)	15 (5.6)
2020 年	57 (20.4)	38 (15.4)	34 (12.8)	15 (6.0)	13 (4.8)
2021 年	27 (9.7)	58 (23.5)	47 (17.7)	27 (10.8)	15 (5.6)
2022 年		29 (11.7)	52 (19.6)	42 (16.8)	32 (11.9)
2023 年			12 (4.5)	43 (17.2)	42 (15.6)
2024 年				29 (11.6)	57 (21.1)
2025 年					32 (11.9)

（注）前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。
対象は 2021～2025年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

2025年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の409人から12人減少して397人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は79人、2020年以降の者は191人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち68.0%となっている。

表10－1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2004年	18.8
2005年	18.2
2006年	19.4
2007年	18.0
2008年	18.2
2009年	17.9
2010年	18.3
2011年	18.6
2012年	18.7
2013年	18.1
2014年	18.8
2015年	20.0
2016年	19.7
2017年	20.8
2018年	20.6
2019年	20.4
2020年	19.1
2021年	20.8
2022年	19.9
2023年	19.9
2024年	20.7
2025年	20.4

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2004年	31.6
2005年	31.4
2006年	33.2
2007年	32.1
2008年	32.3
2009年	30.7
2010年	32.6
2011年	32.9
2012年	33.7
2013年	31.5
2014年	38.0
2015年	37.1
2016年	33.3
2017年	35.0
2018年	34.5
2019年	34.4
2020年	27.5
2021年	38.9
2022年	32.4
2023年	40.0
2024年	37.0
2025年	35.2

2025年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた(症状発現から受診までの期間が2か月以上)患者の割合は、前年から0.3ポイント減少して20.4%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は35.2%で、前年から1.8ポイントの減少となっている。

表10－2．初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合（％）
2004年	25.0
2005年	25.7
2006年	24.3
2007年	21.7
2008年	19.9
2009年	20.4
2010年	22.6
2011年	22.7
2012年	22.0
2013年	22.1
2014年	21.6
2015年	21.5
2016年	22.0
2017年	21.7
2018年	22.0
2019年	21.9
2020年	20.9
2021年	23.1
2022年	21.5
2023年	22.5
2024年	22.4
2025年	23.2

（再掲）30～59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合（％）
2004年	14.1
2005年	14.6
2006年	13.9
2007年	13.2
2008年	10.6
2009年	10.9
2010年	13.6
2011年	14.8
2012年	15.0
2013年	13.9
2014年	13.7
2015年	13.6
2016年	16.1
2017年	14.7
2018年	15.7
2019年	15.2
2020年	14.3
2021年	16.5
2022年	13.5
2023年	15.0
2024年	17.2
2025年	18.1

2004年～2006年までは初診から登録までの期間、2007年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、前年から0.8ポイント増加して23.2%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は18.1%で、前年から0.9ポイントの増加となっている。

表10－3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合（％）
2004年	20.3
2005年	19.7
2006年	20.7
2007年	18.5
2008年	18.1
2009年	18.2
2010年	19.6
2011年	19.4
2012年	19.6
2013年	18.7
2014年	19.0
2015年	20.4
2016年	19.6
2017年	21.2
2018年	20.7
2019年	21.7
2020年	19.7
2021年	22.0
2022年	20.5
2023年	21.3
2024年	21.8
2025年	22.7

（再掲）30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合（％）
2004年	28.2
2005年	28.7
2006年	29.5
2007年	26.9
2008年	27.0
2009年	26.9
2010年	28.4
2011年	29.8
2012年	30.5
2013年	29.0
2014年	32.9
2015年	35.5
2016年	32.6
2017年	33.6
2018年	30.6
2019年	33.3
2020年	27.6
2021年	36.1
2022年	29.5
2023年	40.4
2024年	31.8
2025年	30.9

2004年～2006年までは発病から登録までの期間、2007年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、0.9ポイント増加して22.7%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は30.9%で、前年から0.9ポイントの減少となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核菌陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

() 内は構成比

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
新 登 録 肺 結 核 患 者 数	8,413	7,454	7,495	7,456	7,330
菌陽性患者数*	5,902 (100.0)	5,231 (100.0)	5,515 (100.0)	6,423 (100.0)	6,335 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	41 (0.7)	26 (0.5)	35 (0.6)	45 (0.7)	47 (0.7)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	19	14	19	22	24
上記以外でINH耐性含む	180 (3.0)	174 (3.3)	219 (4.0)	219 (3.4)	203 (3.2)
上記以外でRFP耐性含む	15 (0.3)	15 (0.3)	17 (0.3)	10 (0.2)	16 (0.3)
その他耐性	239 (4.0)	223 (4.3)	231 (4.2)	208 (3.2)	242 (3.8)
HRSEすべてに感受性	4,038 (68.4)	3,617 (69.1)	3,938 (71.4)	3,949 (61.5)	3,856 (60.9)
HR感受性その他不明	38 (0.6)	31 (0.6)	86 (1.6)	83 (1.3)	126 (2.0)
未実施・他・不明	1,351 (22.9)	1,145 (21.9)	989 (17.9)	1,909 (29.7)	1,845 (29.1)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者	4,551 (77.1)	4,086 (78.1)	4,526 (82.1)	4,514 (70.3)	4,490 (70.9)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
菌陽性患者数*	4,551 (100.0)	4,086 (100.0)	4,526 (100.0)	4,514 (100.0)	4,490 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	41 (0.9)	26 (0.6)	35 (0.8)	45 (1.0)	47 (1.0)
上記以外でINH耐性含む	180 (4.0)	174 (4.3)	219 (4.8)	219 (4.9)	203 (4.5)
上記以外でRFP耐性含む	15 (0.3)	15 (0.4)	17 (0.4)	10 (0.2)	16 (0.4)
その他耐性	239 (5.3)	223 (5.5)	231 (5.1)	208 (4.6)	242 (5.4)
HRSEすべてに感受性	4,038 (88.7)	3,617 (88.5)	3,938 (87.0)	3,949 (87.5)	3,856 (85.9)
HR感受性その他不明	38 (0.8)	31 (0.8)	86 (1.9)	83 (1.8)	126 (2.8)

INH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

*: 2023年までは、新登録肺結核患者のうち結核菌培養検査での結果陽性患者数。

2024年は、新登録肺結核患者のうち治療歴なし、または治療歴不明では、結核菌培養検査またはその他の結核菌検査での結果陽性患者数と、治療歴ありでは、結核菌培養検査での結果陽性患者数を合計した数。

2025年の新登録肺結核菌陽性結核患者* 6,335人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者 (INH、RFP両剤感受性検査結果判明者) は4,490人で、割合は70.9%となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数 (INH、RFP両剤耐性の者) は47人となっている。また、多剤耐性肺結核患者47人のうち、24人が外国出生患者となっている。新登録肺結核菌陽性結核患者で薬剤感受性検査結果が判明した者のうち多剤耐性結核割合は1.0%で前年と同率となっている。また、主要4剤 (HRSE) 全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は85.9%となっている。

*: 2023年までは、新登録肺結核患者のうち結核菌培養検査での結果陽性患者。2024年は、新登録肺結核患者のうち治療歴なし、または治療歴不明では、結核菌培養検査またはその他の結核菌検査での結果陽性患者。治療歴ありでは、結核菌培養検査での結果陽性患者。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはH I V感染

(() 内は構成比)

区 分	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
新登録結核患者数	11,519 (100.0)	10,235 (100.0)	10,096 (100.0)	10,051 (100.0)	9,899
糖尿病ありの者	1,775 (15.4)	1,614 (15.8)	1,696 (16.8)	1,581 (15.7)	1,440 (14.5)
なしの者	8,257 (71.7)	7,122 (69.6)	7,208 (71.4)	7,182 (71.5)	7,038 (71.1)
不明の者	1,487 (12.9)	1,499 (14.6)	1,192 (11.8)	1,288 (12.8)	1,421 (14.4)
H I V検査実施陽性者	30 (0.3)	25 (0.2)	14 (0.1)	29 (0.3)	21 (0.2)
H I V検査実施陰性者	817 (7.1)	608 (5.9)	636 (6.3)	608 (6.0)	510 (5.2)
H I V検査未実施者	3,838 (33.3)	3,401 (33.2)	3,703 (36.7)	3,585 (35.7)	3,424 (34.6)
不明の者	6,834 (59.3)	6,201 (60.6)	5,743 (56.9)	5,829 (58.0)	5,944 (60.0)

2025年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,440人で、新登録結核患者の14.5%となっている。また、HIV検査を実施した患者は531人で、新登録結核患者の5.4%にあたり、このうちHIV陽性は21人で、新登録結核患者の0.2%となっている。

表13-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（看護師・保健師）

(() 内は新登録に占める割合)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	116 (1.0)	113 (1.1)	91 (0.9)	108 (1.1)	77 (0.8)
15～19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	15 (1.6)	12 (1.5)	17 (1.6)	18 (1.4)	13 (0.8)
30～39歳	16 (2.7)	25 (5.0)	9 (1.7)	18 (3.0)	16 (2.8)
40～49歳	33 (5.2)	33 (6.0)	25 (5.1)	27 (5.8)	18 (3.9)
50～59歳	36 (4.3)	22 (3.0)	18 (2.4)	28 (3.8)	19 (2.9)
60～69歳	13 (1.2)	19 (2.1)	16 (1.9)	12 (1.5)	6 (0.8)
70～79歳	3 (0.1)	1 (0.0)	6 (0.3)	5 (0.3)	5 (0.3)
80歳以上	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

2025年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は77人で、前年の108人から31人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は0.8%と前年から0.3ポイントの減少となっている。年齢階級別の割合では、40～49歳が最も高く、同年齢階級新登録結核患者の3.9%となる18人の登録となっている。

表13－2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	27 (0.2)	20 (0.2)	24 (0.2)	20 (0.2)	20 (0.2)
20～29歳	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	2 (0.2)	0 (0.0)
30～39歳	5 (0.8)	2 (0.4)	2 (0.4)	3 (0.5)	3 (0.5)
40～49歳	5 (0.8)	0 (0.0)	2 (0.4)	1 (0.2)	0 (0.0)
50～59歳	5 (0.6)	4 (0.5)	3 (0.4)	0 (0.0)	2 (0.3)
60～69歳	4 (0.4)	6 (0.7)	3 (0.3)	3 (0.4)	5 (0.7)
70～79歳	3 (0.1)	4 (0.2)	8 (0.4)	6 (0.3)	7 (0.4)
80歳以上	4 (0.1)	3 (0.1)	5 (0.1)	5 (0.1)	3 (0.1)

2025年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は20人で、前年と同数となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。20歳から79歳の各年齢階級別新登録結核患者中割合は0.0～0.7%となっている。

表13－3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総 数	212 (1.8)	192 (1.9)	204 (2.0)	265 (2.6)	342 (3.5)
15～19歳	2 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (7.3)	3 (2.6)
20～29歳	47 (5.1)	54 (6.9)	65 (6.2)	115 (8.9)	162 (10.0)
30～39歳	38 (6.4)	29 (5.8)	33 (6.1)	33 (5.6)	49 (8.5)
40～49歳	44 (6.9)	35 (6.4)	29 (6.0)	35 (7.5)	45 (9.8)
50～59歳	35 (4.2)	34 (4.6)	47 (6.2)	36 (4.9)	35 (5.3)
60～69歳	33 (3.1)	24 (2.6)	23 (2.7)	27 (3.4)	35 (4.6)
70～79歳	11 (0.5)	15 (0.7)	4 (0.2)	7 (0.4)	10 (0.6)
80歳以上	2 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.1)	5 (0.1)	3 (0.1)

（注）その他：理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職等、看護師・保健師・医師以外で医療機関に勤務する結核感染リスクが高いと考えられる者。

2025年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は342人で、前年の265人から77人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は3.5%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く162人で、前年の115人から47人の増加となっており、同年齢階級新登録結核患者の10.0%となっている。

表14－1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

(() 内は新登録に占める割合)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
合 計	600 (19.9)	513 (20.0)	453 (16.0)	497 (16.1)	450 (13.6)
20～24歳	56 (12.5)	39 (10.6)	39 (7.5)	28 (4.1)	42 (4.5)
25～29歳	65 (13.5)	60 (14.7)	49 (9.4)	61 (9.9)	64 (9.2)
30～34歳	50 (15.9)	57 (20.7)	45 (14.3)	53 (15.1)	49 (13.1)
35～39歳	60 (21.3)	47 (20.7)	29 (12.8)	40 (16.7)	37 (18.6)
40～44歳	59 (21.5)	46 (18.3)	55 (24.7)	40 (17.5)	29 (14.6)
45～49歳	72 (19.7)	62 (21.1)	50 (18.9)	59 (24.7)	51 (19.7)
50～54歳	126 (28.2)	88 (23.7)	93 (24.1)	98 (28.4)	84 (25.3)
55～59歳	112 (28.4)	114 (31.6)	93 (24.7)	118 (30.3)	94 (28.9)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

2025年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は450人で、前年の497人から47人減少している。新登録結核患者のうちの割合は13.6%で前年から2.5ポイントの減少となっている。年齢階級別での患者数は、55～59歳が最も多い94人で、同年齢階級の28.9%となっている。

表14－2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数（男性、再掲）

(() 内は新登録に占める割合)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
合 計	306 (18.2)	265 (18.2)	244 (15.1)	261 (15.4)	232 (13.0)
20～24歳	25 (10.6)	15 (7.7)	22 (7.8)	19 (5.2)	20 (4.3)
25～29歳	30 (11.5)	21 (9.8)	25 (9.7)	25 (8.3)	34 (9.3)
30～34歳	15 (9.7)	17 (13.0)	19 (10.8)	23 (12.6)	20 (10.3)
35～39歳	19 (13.9)	17 (14.7)	19 (14.1)	15 (12.7)	15 (14.7)
40～44歳	22 (16.1)	22 (16.7)	21 (17.6)	14 (11.8)	14 (13.3)
45～49歳	38 (17.5)	33 (19.2)	25 (16.6)	34 (24.3)	27 (19.9)
50～54歳	76 (28.0)	57 (22.2)	59 (22.5)	60 (27.3)	47 (23.3)
55～59歳	81 (29.6)	83 (35.2)	54 (23.3)	71 (28.0)	55 (24.8)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

男性患者に占める無職臨時日雇等の者の年齢階級別割合は55～59歳が最も高く24.8%で、前年からは3.2ポイントの減少となっている。

表15－1. 前年(2024年)新登録結核患者の治療成績

	総数	治療 成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・ 中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	10,020	6,780 (67.7)	2,426 (24.2)	5 (0.05)	217 (2.2)	238 (2.4)	339 (3.4)	15 (0.1)
0～9歳	23	22 (95.7)	0 (0.0)	0 (0.00)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)
10～19歳	102	88 (86.3)	1 (1.0)	0 (0.00)	1 (1.0)	7 (6.9)	4 (3.9)	1 (1.0)
20～29歳	1,290	1,110 (86.0)	1 (0.1)	2 (0.16)	24 (1.9)	113 (8.8)	38 (2.9)	2 (0.2)
30～39歳	591	505 (85.4)	0 (0.0)	0 (0.00)	8 (1.4)	56 (9.5)	21 (3.6)	1 (0.2)
40～49歳	462	403 (87.2)	11 (2.4)	1 (0.22)	8 (1.7)	17 (3.7)	21 (4.5)	1 (0.2)
50～59歳	733	634 (86.5)	38 (5.2)	0 (0.00)	13 (1.8)	12 (1.6)	33 (4.5)	3 (0.4)
60～69歳	787	629 (79.9)	95 (12.1)	0 (0.00)	19 (2.4)	3 (0.4)	40 (5.1)	1 (0.1)
70～79歳	1,746	1,214 (69.5)	414 (23.7)	2 (0.11)	46 (2.6)	6 (0.3)	61 (3.5)	3 (0.2)
80～89歳	2,847	1,621 (56.9)	1,052 (37.0)	0 (0.00)	66 (2.3)	17 (0.6)	91 (3.2)	0 (0.0)
90歳以上	1,439	554 (38.5)	814 (56.6)	0 (0.00)	32 (2.2)	7 (0.5)	30 (2.1)	2 (0.1)

2024年新登録結核患者の2025年末での治療成績は、治療成功が67.7%、死亡24.2%、失敗0.05%、脱落・中断2.2%、転出2.4%、治療中3.4%、不明0.1%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で12.1%、70～79歳で23.7%、80～89歳で37.0%、90歳以上で56.6%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は85.4%～95.7%となっている。脱落・中断は、70～79歳で最も高く2.6%となっている。

表15－2. (再掲)前年(2024年)新登録再治療結核患者の治療成績

	総数	治療 成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・ 中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	403	272 (67.5)	86 (21.3)	0 (0.0)	16 (4.0)	7 (1.7)	20 (5.0)	2 (0.5)
0～9歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10～19歳	2	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	35	29 (82.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	2 (5.7)	3 (8.6)	0 (0.0)
30～39歳	19	12 (63.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	6 (31.6)	0 (0.0)
40～49歳	18	15 (83.3)	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (5.6)	1 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
50～59歳	42	31 (73.8)	4 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.8)	5 (11.9)	0 (0.0)
60～69歳	43	33 (76.7)	5 (11.6)	0 (0.0)	2 (4.7)	0 (0.0)	2 (4.7)	1 (2.3)
70～79歳	78	55 (70.5)	14 (17.9)	0 (0.0)	4 (5.1)	0 (0.0)	4 (5.1)	1 (1.3)
80～89歳	109	69 (63.3)	36 (33.0)	0 (0.0)	3 (2.8)	1 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
90歳以上	57	26 (45.6)	26 (45.6)	0 (0.0)	5 (8.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

2024年新登録再治療結核患者の2025年末での治療成績は、治療成功が67.5%、死亡21.3%、失敗0.0%、脱落・中断4.0%、転出1.7%、治療中5.0%、不明0.5%となっている。

表15－3. 前年(2024年)新登録潜在性結核感染症（LTBI）治療開始者の治療成績

	総数	治療完了 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	5,886	5,052 (85.8)	181 (3.1)	17 (0.3)	461 (7.8)	33 (0.6)	127 (2.2)	15 (0.3)
0～9歳	345	326 (94.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (3.8)	1 (0.3)	5 (1.4)	0 (0.0)
10～19歳	108	93 (86.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (8.3)	3 (2.8)	3 (2.8)	0 (0.0)
20～29歳	754	677 (89.8)	1 (0.1)	3 (0.4)	27 (3.6)	13 (1.7)	32 (4.2)	1 (0.1)
30～39歳	506	461 (91.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (4.5)	11 (2.2)	8 (1.6)	3 (0.6)
40～49歳	546	494 (90.5)	1 (0.2)	1 (0.2)	36 (6.6)	3 (0.5)	10 (1.8)	1 (0.2)
50～59歳	778	691 (88.8)	8 (1.0)	2 (0.3)	60 (7.7)	0 (0.0)	17 (2.2)	0 (0.0)
60～69歳	678	577 (85.1)	17 (2.5)	5 (0.7)	69 (10.2)	1 (0.1)	7 (1.0)	2 (0.3)
70～79歳	1,167	976 (83.6)	64 (5.5)	2 (0.2)	96 (8.2)	1 (0.1)	24 (2.1)	4 (0.3)
80～89歳	823	621 (75.5)	71 (8.6)	4 (0.5)	107 (13.0)	0 (0.0)	16 (1.9)	4 (0.5)
90歳以上	181	136 (75.1)	19 (10.5)	0 (0.0)	21 (11.6)	0 (0.0)	5 (2.8)	0 (0.0)

2024年潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2025年末での治療完了率は85.8%となっている。脱落・中断は7.8%となっているが、高齢者で高くなる傾向がみられており、80～89歳で13.0%、90歳以上では11.6%となっている。

表15－4. 前々年(2023年)新登録結核患者で多剤耐性の者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	46	26 (56.5)	8 (17.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (17.4)	4 (8.7)	0 (0.0)

(注) 表15-1 ～ 表15-4: 2025年末までの治療成績

2023年新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2025年末での治療成績は、対象46人のうち治療成功56.5%、死亡17.4%、失敗0.0%、脱落・中断0.0%、転出17.4%、治療中8.7%、不明0.0%となっている。